

非常食に関心を持っていただくために

くらしき作陽大学 2年 平松愛海
(秘書室・危機管理室)

食事で少しでもこころを癒したい！

(目的) 災害時でも栄養のある温かい食事で避難者の心を癒す。

(概要) 災害時でも簡単に自分たちで温かい料理が作れるようにレクチャーをする。

背景・現状

- ・西日本豪雨の時の食事は非常食が多かった。
- ・温かい料理ではなくお弁当が主であった。
- ・誰でも温かい料理が作ることができればみんなの心が癒される。
- ・インターンシップを受け入れてくださった総社市と私の通うくらしき作陽大学食文化学部がつながる良い機会である。

具体的内容

- ・私たち食文化学部が誰でも作れる栄養のある非常食(炊き出し)のレシピを考える。
- ・総社市には自主防災組織があるのでそこでレクチャーをする。
- ・防災訓練の後の一つのコーナーとして出す。
- ・レシピを書いたものをプレゼントする。

対象

- ・自主防災組織の方々
- ・防災訓練に参加してくださった方々
- ・くらしき作陽大学の生徒

あなたの役割

- ・栄養学科なのでレシピを考える
- ・防災訓練への呼びかけ

予算規模:約30万円

- ・レクチャーの材料 20万円
- ・レシピの印刷代 3万円

見込める効果・期限

- ・温かい料理を災害時に提供できる
- ・くらしき作陽大学と総社市の連携

実行上の課題

- ・災害時の食料や調理器具の確保

総社の危ないところはどこじゃろーか

【目的】大学生への防災意識向上の取り組みをすることで、将来の総社の「強くてしなやかなまちづくり」の一助とする。

【概要】①大学生への防災意識調査②大学生版自治組織の結成③避難訓練を含めた防災講座の実施④一人暮らし向けの非常持出品等の紹介

背景・現状

- ・総社市では、南海トラフ発生時最大震度6強の地震が想定されており、大規模水害時には、岡山県立大学周辺も浸水が想定されている。
- ・県外、市外から大学に進学し、1人暮らしをしている学生は、総社市について詳しくないため、いざという時逃げ遅れる可能性がある。
- ・一人暮らしの学生には、非常持出品を置くスペースもなく、もしもの時の備えが不足している可能性がある。

具体的内容

【実施主体】 総社市、岡山県立大学

- ・岡山県立大学の学生に、居住地でどんな災害の可能性があるのか、避難所はどこかなどを把握しているかアンケートをとる。
- ・岡山県立大学の学生の有志による岡山県大学生消防応援隊を中心に自主防災組織を結成し、他の自治組織などと連携し避難訓練等の防災活動を行う。
- ・学生に限らず、一人暮らしの方向けの最低限常備しておいてほしい非常持出品等をHP等で公開し、活用してもらう。

対象

岡山県立大学の学生並びに総社市内在住の学生及びその家族

あなたの役割

- ・実際に、自主防災組織に参加する。
- ・大学やアルバイト先等で呼びかけをする。

予算規模:約30万円

- ・アンケート費用(用紙・調査)
- ・活動費

見込める効果・期限

- ・岡山県大学生消防応援隊に参加していない大学生にも、防災の輪が広がる。
- ・大学生に周知し、防災への意識を高めることで、総社市だけでなく全国どこに行っても、適切に対応がとれるようになる。

実行上の課題

- ・効果を測定しにくい。
- ・非常持出品の購入に費用がかかる。

チュッピーは子どもの安全を見守るそーじゃ！

【目的】①通学路の安全を促す ②チュッピーのPR

【概要】通学路の出会い頭にチュッピーの飛び出し注意看板を設置。

背景・現状

・総社市内では今年に入ってから、全体の交通事故件数が1008件発生している。そのうち、人身事故が全体で109件、死者は2名発生している。(令和4年9月)

・市内の人身事故は午前8時～10時、午後4時～8時の間に多く発生している。

・過去3年間で総社市内の学区では224件の人身事故が発生している。その中でも、総社学区内では人身事故が56件発生しており、総社市内14学区内で発生した全人身事故件数の約3割を占め、最も多い件数。

・総社市は通学路の安全対策としてグリーンベルトを設置し、通学路の存在をアピールと歩行者との接触事故を防いでいる。

具体的内容

・市内の通学路上の見通しが悪い場所などに、チュッピーの飛び出し注意看板を設置する。

・ドライバーに対して歩行者の飛び出しの注意喚起をする。

・飛び出し注意看板のイメージ

全高約1300mm×幅370mm

イラスト部分約600mm×370mm

対象

通学路を利用する園児・児童・生徒。

あなたの役割

SNSや広報紙を通じて通学路の安全活動をPRする。

予算規模:約300万円

25,000円×100個
(その他, 設置, 選定費用等)

見込める効果・期限

- ・注意看板設置による通学路付近の危険箇所の啓発
- ・グリーンベルトを設置できない通学路の安全対策を補う
- ・グリーンベルトと合わせて実施し、市が実施する安全対策の強化を図る
- ・通学路を中心に市内全域でチュッピーへの親しみを感じることが可能。

実行上の課題

- ・通学路上の看板設置場所の選定とスペース確保が必要
- ・看板の制作と設置場所の選定に時間と費用が掛かる

輝く女性消防士！！

【目的】: 緊急参集時に女性消防職員が現場に出て活躍の場を広げる

【概要】: 緊急参集時に子どもを預けられるよう人員を確保する

背景・現状

- ・女性職員の問題として子育てが挙げられている。
- ・現場の方のお話を聞いてこの政策の必要性を感じた。
- ・岡山県内でこのような政策はなく全国的にも声が上がっていたため総社市から広めたい。

対象

総社市消防職員

具体的内容

【実施主体】消防本部

- ・緊急参集時に子どもを連れて消防本部へ集合し、預ける。
- ・24時間365日対応可能で保育士資格保有者やベビーシッター、子育て経験のある人と派遣契約を結んでおく。

あなたの役割

この政策に必要な派遣員を募るためSNSを使って発信。
→協力してくれる友人や部員からも発信を依頼。

予算規模: 約12万円

- ・派遣日数を3日交代とする場合の
人件費
→24時間×1,500円=36,000円
(契約人数によって交代時間を設ける)
食事→1日2,000円(スタッフのみ)

見込める効果・期限

1. 女性職員の不安が軽減
2. 他の消防本部でも活用が可能

実行上の課題

- ・派遣員の確保
- ・派遣員全員が被災した場合、対応不可

誰もが自分らしく暮らせる総社

【目的】障がい者やその家族が自分らしく過せる環境を作る。同じ悩みを抱える人達の交流の場を作り、今よりもっと楽しく安心して暮らせる総社市にし、総社市を活性化させる。

【概要】障がい者、その家族を対象としたイベントを定期的実施する。必要なサービスについてのアンケートを実施する。

背景・現状

- ・障がい者の人口が年々増加している。総社市は、乳幼児健康診査結果における発達障がいの疑いがある児の率が県と比較してかなり高く推移している。
- ・障がい者への支援は積極的に行っているが、障がい者の家族に対するケア、支援が総社市に限らず、全国的に行き届いていない。
- ・障がい者家族は、悩みや不安を抱いて
も、差別や偏見を恐れ一人で抱え込み、うつ状態になるケースが少ない。そのため、障がい者やその家族がさらに安心して自分らしく暮らせるための活動が必要。

対象

- ・市内在住・在勤の障がい者、その家族

具体的内容

【実施主体】市

- ・表現教育に力を入れている環太平洋大学と連携し、歌やダンスなどを通して交流し自らを表現し、自己理解・他者理解を深めるイベントを行う
- ・イベントに相談所(専門の相談員)を設置し、総社市で行っている福祉サービスについての相談や心のケアを行う
- ・どんなサービスが必要とされているか、困りごとはないかなどのアンケートを実施

あなたの役割

- ・環太平洋大学の学生や団体に参加を呼びかける。

予算規模:約30万円

- ・チラシ・アンケート用紙作成等事務経費→約15万円
- ・雑費→約10万円

見込める効果・期限

- ・自己理解・他者理解が深まる。
- ・相談できる人ができる。
- ・福祉サービスの周知ができる。
- ・必要とされているサービスを知ることによって福祉サービスの向上につなげることができる。

実行上の課題

効果が目に見えにくい